

The Reminiscence of Exellia NG+1

四重の見聞を経ても

作成レギュレーション

基本概要

- ・ 経験点：83500 点（新規）、90000 点（継続）
- ・ 資金：70000G（新規）、79000G（継続）
- ・ 名誉点：1500 点（新規）、1800 点（継続）
- ・ 成長回数：137 回

各種制限について

- ・ ヴァグランツ禁止、蛮族 PC 禁止
- ・ SW2.0 / 2.5 標準流派入門禁止、標準流派の秘伝の習得・使用禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限（宿り木の棒杖、楔石強化を除き全面禁止）
- ・ レベル制限 8～9
- ・ 成長回数が 10 以上のときの 60%以上の偏重割り振り（極振り）禁止

動画用の参考資料

【重要】分岐ルート

意見が分かれた場合を除き、PC による選択ルートが動画化される。

意見が分かれた場合は、以下の 3 ルートの中から 1d を用いて決定する。

- ・ 農耕ルート（農業発展）
- ・ 冶金ルート（工業発展）
- ・ 木人ルート（木人作成）

雪月花のマルグリット

読み上げ：未定

SRWZ2～に登場したマルグリットがベース。

エリック・J・ロウティエンス

読み上げ：未定

モチーフは FF16 のフーゴ・クブカと FF14 のネロさん。

ジル・ワーリック

読み上げ：未定

FF16 の同名キャラと同一外見（ただし、コスチューム：シヴァホワイト）。

坂本信宏（ヴァルマーレ海軍幕僚長）

読み上げ：未定

スカラレンジャー装備（赤い部分が青い）。

ゴッドフリー・ザルム

読み上げ：未定

モチーフは FF16 のバルナバス・ザルム（苗字が同じなのはそれゆえ）。

メモ群

東ヴァルマーレ大震災

（※GM メモ：現実における、『東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）』から福島第一原子力発電所事故をオミットしたもの。ヴァルマーレに核分裂炉はない）

第七霊災に際して、ジャパネーゼ列島・啼逝（なきゆ）地方を震源とする、超巨大地震。メタ的に言えば、「十勝沖地震」「東日本大震災」「首都直下地震」「南海トラフ巨大地震」が、ほんの数秒のうちに連鎖発動したようなもの。モーメントマグニチュード 10 オーバー、かつ県単位で震度 7 が多発（計測震度換算で 10.4）。日本と同一レベルの耐震基準であったにもかかわらず、高層ビルが根元から折れて崩壊する大惨事。

ただし、ヴァルマーレには核分裂炉が存在しないため、実質的な被害は地震とその副次災害、および火災旋風だけに留まる。

とはいえ死者は多く、死者だけで 50 万人を超える（関東大震災の約 5 倍、東日本大震災の約 25 倍）。

潜水航空巡洋艦『アリコーン』の性能諸元

艦級名：アリコーン級潜水航空巡洋艦

型式番号：SAC-900RE2

排水量：942500t（※）／水中排水量：1174500t（※）

全長：495m／全幅：114m／高さ：54m

速力：水上で約 54 ノット、水中で約 61 ノット（※）

推進機関：電磁推進器×2、ポンプジェットスクリュープロペラ×2（片側それぞれ 435000 馬力）（※）

主機：超圧縮核融合炉×2（※）

潜行深度：900m（※）

乗員定員：330 名

兵装：SRC-03aR2 600mm レールキャノン改良 2 型×1、200mm 超連射型レールガン×2、VLS×64cell、艦対空ミサイル発射機×4、30mmCIWS×8、魚雷発射管×8（※）

（※）：建造当時は熔融金属冷却型原子炉 2 基だったが、魔動機文明初期を支えた魔動天使の技術が廃れ、核分裂炉が核融合炉に置き換わると同時に置換された。

そのため、本来の性能より 1.45 倍の出力へと変化している。

また、核融合炉への移行により、空いたスペースに魚雷発射管が増設されている。

多目的強襲母艦『プトレマイオス』の性能諸元・元ネタ

元ネタ：ガンダム 00 に登場するプトレマイオス 2（または、プトレマイオス 2 改）

艦級名：クラディオス級多目的強襲母艦

全長：251m

推進機関：圧縮エーテル噴出式反動推進エンジン×2（※1）

主機：試作型エーテル縮退炉（※1）

補機：艦載機 GN ドライブ×6、GN コンデンサー（※2）

装甲材質：E カーボン

潜行深度：1500m（※3）

兵装：大型 GN キャノン×4、GN キャノン×4、GN ミサイル・巡航ミサイル共用発射管×38、GN 魚雷発射管×4、GN フィールド、光学迷彩

（※1）：「方舟計画」により、主機として試験用のエーテル縮退炉が搭載されている。

（※2）：艦載機からの GN 粒子供給により蓄積。

（※3）：装甲材質などの影響もあって、アリコーンよりも潜れる（ただし偶然）

ベルリオーズの要求

『隕石を耐える強力な木材』スターズクラージュ原木：2400 本

『激しい熱を以て焼き上げる金属』タングステン鉱：6400 個

『火守の者達の強力な研磨剤』工芸館特製研磨剤：3200 個

『地に煌めく青緑の貴金属』翠銀鉱：240 個

『地に輝く青緑の貴金属砂』翠銀砂：240 個

『普遍的・加工容易な金属』銀鉱：60 個

『ナリューファ川の清水』岩清水：10L

『猛牛の大角』カギュウの大角：10 個

『ヴァルマーレで人気の薬』葛根：20 株
『香辛料として用いられる種子』馬芹：10 袋
『中程度の風の結晶』ウィンドクリスタル：4380 個
『中程度の水の結晶』ウォータークリスタル：40 個
『中程度の雷の結晶』ライトニングクリスタル：30 個
『強力な炎の結晶』ファイアクラスター：3200 個
『強力な土の結晶』アースクラスター：3200 個

ノートリアスモンスター『禍つ炎の牛』

その牛は火を纏い、その獰猛さは竜をも食らう。
火を纏っていること、図体が異様にでかいことを除けば、あきらかに普通の牛だ。
だが、慢心することなかれ。奴は炎を己の生命の源とする。
その業、まさに『牛を殺し続けた者への裁き』なり。

導入

起こるべくして

〈永久氷晶のネックレス〉の一件が終わってから…すなわち、リーンがガイアにそれを渡してから、4 日後。

君達は、なにやら 3 つの陣営によって板挟みになっていた。

アンドレイ

「せっかく高炉ができたんだ、他の設備も、エクセリアからアイデアだけは聞いている。

だから、さっさと作りてえんだが」

マルグリット

「工業化で一手打ってもらったのでしょうか？ だったなら、農業施設の発展も手伝ってもらいたいのよ」

ベルリオーズ

「こいつらが戦闘訓練を積んでいるところを見た覚えがないぞ。特訓場も、どこかしらに作ったほうがいいんじゃないのか？」

(※GM メモ：RP 待機)

対立構造は単純だ。工業化を進めたいアンドレイ、農業施設の増築・拡張を行いたいマルグリット、君達のための訓練場を作りたいベルリオーズ。

君達は、彼らの意見を聞き、悩むだろう。

そこへ、エクセリアがやってくる。

エクセリア

「何の騒ぎだ？」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「ああ…そういうことか。私は…あの狂信者を殺ってくる。

その騒ぎは、君達が収めるんだ」

そう言って、彼女は隠れ家から出ていくだろう。

この後のシナリオ展開は、プレイヤーの選択に応じて変化します。

エフェメラル参道にて

君達が、対立に対応し始めたころ。

エクセリアは、エフェメラル参道の中頃、フレイディア外縁の城壁の上に立つ「それ」を見ていた。

漆黒の騎士、すなわちオーディンである。

オーディン

『ようやく、承ってくれたか。だが——御方に、今のままのお前を、お見せすることはできん』

そう言って、オーディンはエクセリアを外界から隔絶する。

オーディン

『神の元へ向かいたくば、我が下へ参じよ。

そのとき、お前を《器》として完成させ、神に捧げよう』

エクセリアは、オーディンに対して…さほど関心がないような表情を浮かべていた。

エクセリア

「…《器》だって？お前は、一体何を判断材料にしている…？」

共通部分（Lap2-14d）

贅の王-場面 1

隔絶された領域にて、エクセリアは、オーディンに指定された領域へと向かった。

《幻想の塔》。そう呼ばれている、古の時代から存在する巨大遺跡だ。

その巨大遺跡に入り、エクセリアはオーディンのドミナントの名を呟く。

そうして、彼女は塔の中を駆け始めた。…その最上層の、一つ前。

そこに、巨大な鋼の騎兵が現れる。

エクセリア

「さしずめ、『宿将』といったところか…！」

この戦闘ではエクセリアを操作します。

敵：宿将ナイジェル

エクセリアは、宿将ナイジェルを撃破した。

薬を飲み、口を拭った後…エクセリアは忌々しげに、上層を睨む。

エクセリア

「…この上か」

贅の王-場面 2

幻想の塔、その最上層——扉を開き、エクセリアは屋外の広間へと出る。

そこには、地に伏したアカシア達が転がっていた。

エクセリア

「これは…」

ゴッドフリー

「我が剣の糧となるべく集った者達だ」

エクセリア

「ゴッドフリー…！」

ゴッドフリーと呼ばれた騎士甲冑に身を包んだ男は、自我を持ったエクセリアを軽蔑するように話を始める。

ゴッドフリー

「なぜ、そうまで人であることに固執する？ミュトス。いつの世も、人が変わることはない。その弱さ故に力あるを妬み、力なきを踏みにじる…。愚かに、己と異なるを憎み、己と同じと見るや徒党を組んで他を排し、出る杭を撃ち貫く…」

「それもひとえに、己の安楽と優越のため…。差別も迫害も、分断も対立も、人が作り上げてきた悪意の営みそのものではないか。それらはすべて、自我による苦しみが齎したもの。お前とて、その悪意を負わされ続けてきた身であろうに」

エクセリアは、少し思案した後に、口を開く。

エクセリア

「…しがらみは断たれよ、艱難は注げ」

ゴッドフリー

「なに…？」

エクセリア

「苦しみと悲しみがあったから、私は嘗て以上に成長できた。未来を拓くため、祝福を失いつつも、未来のために突き進んだ。そのすべてが、私の生きる力となる。私は、未来が見えずとも生きていく。そのために、人でありたい」

エクセリアの決意を、ゴッドフリーはケツイと同義に捉えた。その結果、嘲笑うように言葉を紡ぎ始める。

ゴッドフリー

「…あくまで人であることを貫き通そうというのか」

「遠い昔、剣は人に魔法という力を与え、人はその魔法によって文明を築き上げた。だがやがて、更なる力を求めた結果、人の一部が異形へと化すようになった。今のようにな。人は欲という自我に飲み込まれた挙げ句、滅びの道を歩んだのだ」

「剣は、その状況を見るや、こう仰せられた。『人よ、新たな世界へと向かうには、自我を捨てよ』と。人が真あるべき世界に導かれるには、己を捨てねばならん。愚かな過ちを繰り返さぬように…、御方らが望む、無垢なる存在になる必要があるのだ」

ゴッドフリーは階段を降り始め、その長ったらしい口上を述べ続ける。

エクセリアはそれに嫌気が差し、己の中に燃る<ruby>人間性</ruby>を解き放った。

エクセリア

「『自我を捨てた人』は、お前の救いたかった『人』ではないだろう！ふざけるな！お前は…、新たな世界を望んだお前は、結局自我を捨てることができていない…！お前の証明に対し、反証を以て抗おう…！」

(※GMメモ：BGM「To Sail Forbidden Seas」)

ゴッドフリー

「ククク…、クハハハハハハハ！見せてみる、それを。“本当の生”とやらをな」

エクセリア

「生きることを諦めた、お前にだけは…、決して負けない」

敵：ゴッドフリー・ザルム

ゴッドフリー戦 P1 開幕

ゴッドフリー

「正しいのは、私か、お前か…。この戦いが終われば、自ずと分かることだ」

「所詮、人など紛い物。御方らの力に抗うことなどできん」

ゴッドフリー戦 P2 移行（HP80%以下）

ゴッドフリー

「神の現し身として選ばれながら、未だ愚かな思念に身を窺すか…。ならば——」

そう言って、ゴッドフリーは漆黒の魔力に覆われる。そこに現れるは、漆黒の騎士オーディン。

1 回目の踏みつけをどうにか回避したが、2 回目の踏みつけは避けられなかったエクセリアは、やむを得ず顕現する。その膂力でスレイプニルを押しつけたクェーサーは、左手に暗月の大剣を構える。

ゴッドフリー

「そう、その力だ！」

クェーサーが放った光波は、いとも容易くオーディンの顕現を解くに至る。

(※GMメモ：ゴッドフリーのHPを15%減らす)

落下するゴッドフリーを、クェーサーが追隨する。握り潰さんと伸ばした右手を、斬鉄剣を構えたゴッドフリーが切り払う。

ゴッドフリー

「甘いな」

急所を穿たれ、墜落すると同時に顕現が解けるエクセリア。

ゴッドフリー

「己の天命を理解し、己の役割に従順になることだ。自我を捨てよ、ミュトス。私に、勝ちたいのだろうか？」

エクセリア

「貴様…！」

ゴッドフリー

「さあ、お前の力を見せてみる！」

ゴッドフリー戦 P3 移行 (HP55%以下)

ゴッドフリー

「この力は…？」

エクセリア

「人を捨てたお前には…永劫分らない力だ…！」

そう言って、ゴッドフリーを突き刺すエクセリア。

しかし、ゴッドフリーは平然としていて、エクセリアを蹴り飛ばすと同時にその傷が癒える。

そして、再びゴッドフリーは顕現を発動した。

賛の王-場面 3

ふたたび顕現したクェーサーは、オーディンに追い縋る。しかし、斬鉄剣でいとも容易くいなされる。

そのまま落下したクェーサーは、構えるオーディンをその目に捉える。

エクセリア

「奴は何を…！」

ゴッドフリー

「《斬鉄剣究極奥義》！《大斬鉄》…！」

大斬鉄——かつて彼らに残影のエクセリアが実行した《大衝刃》のような攻撃。

エクセリアはそれを理解していたが故に——

エクセリア

「やらせん！」

腰に暗月の大剣をしまい、白羽取りの要領で、その大斬鉄を砕く。

大斬鉄返し。それにより、オーディンは致命的な一撃を受ける。

ゴッドフリー

「なに…！？」

(※GMメモ：ゴッドフリーのHPを5%減らす)

墜ちていくゴッドフリーは、体勢を立て直しつつも、『自我を持ちながらも力を使いこなしている』という事実を反芻する。

エクセリア

「ゴッドフリィィィ！！」

拳を振りかぶったクェーサーだが、振り下ろそうとした直後、顕現が解ける。

エクセリア

「なんだ…！？」

降りてきたエクセリアを見て、ゴッドフリーは笑い出す。

ゴッドフリー

「面白い…。面白いぞ、ミュトス！どうやら私は、お前の愚かさにあてられたらしい…！
感じるのだ！

遠い昔のように、熱い血潮をな！これが“本当の生”というものか！

痺れるような陶酔と、この身を焦がす罪深き歓喜が…！」

「浅ましき人の身にただひとつ許された、甘美な毒…！最後の一滴まで、とくと飲み干してやる！ミュトオオオオオオオス！お前の真価を私に見せてくれ！」

極・斬鉄剣の構え

ゴッドフリー戦 P4 移行（極・斬鉄剣）

GM メモ：DPS チェック

6 ラウンド目終了まで、DPS チェックのバリアが 1 未満にならない。

R1：薙ぎ払い+斬り払い

R2：天の秤量

R3：斬鉄閃

R4：薙ぎ払い+斬り払い

R5：天の秤量

R6：グングニル

R7：極・斬鉄剣（時間切れ）or 静寂の使徒（DPS チェック突破）

極・斬鉄剣 DPS チェック失敗

ゴッドフリー

「今こそすべてを解き放つ！極・斬鉄剣！！」

P3 の DPS チェックからやり直し（剣の託宣が余っていない場合）。

極・斬鉄剣 DPS チェック突破

ゴッドフリー

「いいぞ！それだ、その力だ！もっと私に見せてくれ！」

R8 以降の台詞群

斬鉄剣・號（初回）

ゴッドフリー

「私の宿願は、まもなく叶うだろう！この世界は、静かに微睡むのだ…！」

斬鉄剣・鳳（初回）

エクセリア

「そんな日は決して来ない！来させるものか…！」

ゴッドフリー

「何を言う、ミュトス…！お前という存在が、その何よりの証拠じゃないか！」

エクセリア

「私は、神の玩具になるつもりはない！」

ゴッドフリー戦 P5 移行（HP35%以下）

ゴッドフリー

「いいだろう、私も力を解き放つ…！」

「この激情は、ニサベベルの建国以来か！ああ…！何たる至福…！」

「互いが燃え尽き、果てるまで！この戦い——存分に楽しませて貰うぞ！」

「オーディンの力、堪えることができるか！？」

（※GMメモ：P5 開始後 5 ラウンド目で顕現解除）

ゴッドフリー

「なに…顕現が…！？」

エクセリア

「これで、終わりだ…！」

（※GMメモ：自動的に《斬鉄乱舞・終》の発動が可能になり、更に与えるダメージが 16 倍になる）

ゴッドフリー戦終了

エクセリアの放った渾身の一撃により、ゴッドフリーの兜が飛ばされる。

ゴッドフリー

「正しかったのは、私か、お前か…」

エクセリア

「お前が言ったんだろう。私達の、この戦いが終われば、おのずと分かるのだと」

ゴッドフリー

「すべては、天意…そうだろう？エクセリア・アウェア・エレーミアス！！」

ゴッドフリーが斬りかかる。それを、月光の銘を打たれた月明かりの刀が弾き飛ばす。
直後の突きにより、ゴッドフリーは地に落ちていった。

ゴッドフリー戦後チル

吐血しながら、起き上がるゴッドフリー。

それを、緋の双眸で見つめ、しかし残心を忘れず構え続けるエクセリア。

ゴッドフリー

「自我を持ったまま、私を倒すとは…。これが人の進化というものか…」

エクセリアは何も言わない。否定しようと肯定しようと、結果は変わらないと分かっているからだ。

足を掴まれ、エクセリアは顔をしかめる。

ゴッドフリー

「お前が…どれほど…自我で己を固めようと…、すべては、御方らの…掌の上…。私の目的を…忘れたとは言わせんぞ…。世界を描きうる血に、我が力を注ぎ込み…、この手で、お前を完全な神の器にする…！」

「受け取れ、エクセリア・アウェア・エレーミアス…！」

お前は神とひとつになる…それが定めだ…！さあ、この力を喰らうがいい…！

御方らが召喚獣の理を敷き続けた、古からの定めに従え…！」

己の名と似て非なる名を呼んだ彼に苛立ちを感じたのか、エクセリアはゴッドフリーの腕を刻んだうえで蹴り飛ばす。痛みすら、死の前にはないのか…、ゴッドフリーはうわごとを吐いた後に、塵と化して消えた。

農耕ルート（Lap2-14a）

導入：農耕ルート

君達は、困り果てたマルグリットに話しかけた。

マルグリット

「あ、冒険者さんですね？私はマルグリット。他人からは、『雪月花』の異名で呼ばれています。丁度、説得のためにも、あなたがたの手を借りたいところでした。

私達は、この隠れ家がある小島にて、作物の研究を行っています。そこで、エクセリアにこう言われたのです。『扱う作物を増やしてくれ』と。よって、私達が依頼するのは、単純な話、ヴァルマーレの作物とされる『コメ』の確保です」

(※GMメモ：RP待機)

????

「コメ、ですか。確かに、ヴァルマーレでしか栽培されていないですね」

そこへ、ひとりの女性がやってくる。

両腰に、廉価版だろうか…エクセリアの双刀に似た双刀を提げた、和装の女性。

(※GMメモ：RP待機)

どことなく『過去の追想の世界』を彷彿とさせたその外見を持つ彼女は、君達が《暗魂の暁》に所属する、もっと前に所属した者だ。

マルグリット

「システィナさん！珍しいですね、隠れ家に来るなんて」

システィナ

「まあ、エクセリアさんから概ね事情は聞いてますし。向こうには、ミアキスの偉丈夫を置いてきたので大丈夫でしょう」

そう言って、君達にシスティナが話しかけてくる。

システィナ

「ヴァルマーレでしか耕作されていない、『コメ』の種籾を手に入れるには、相当の努力が必要です。気温や湿度で言えば、概ね育つ環境であることに違いはありませんが…、ここは『黒の一带』と呼ばれるエーテル枯渇域。回復させずにコメを育てる場合…農地作りも考慮すると、途方もない時間を要します」

(※GMメモ：RP待機)

システィナ

「が…エクセリアさんはいけると踏んだ。あの人、そこに理由がないなら一切手をつけませんから、確実にそうだと言えます。手伝ってもらえますか？」

(※GMメモ：RP待機)

エメリーヌ

「事情はおおかた察したわ。他のことは、今いる面子でやるから任せなさい」

「土のドミナント」

君達は、フレイディアの東から繋がる『エフェメラル参道』の先、魔動機文明の遺構があるとされる『闇喰竜の柱』に向かうことになった。

向かう道中、マンダラム村の方面が、闇の障壁に覆われていて、近づくことが適わなかった。

そこでは、鍛冶師だと言われても普通に通りそうな『薄頭の男』が、君達の来訪を待っていた。

????

「待ってたぜえ、《暁の英雄》サンよお。

システィナから大まかな内容は聞いてるぜ。種粿が欲しいんだってな？

だが…お前達のその願いを叶える前に、少しばかり俺の我が儘に付き合ってもらおうか」

その薄頭の男は、君達を見るや条件を突きつけてきた。

薄頭の男

「俺が協力する条件っていうのは、空っぽな脳みそを持つ亡者でさえも分かるものだ」

(※GMメモ：RP待機)

薄頭の男

「…本当に、簡単な話だ。俺は土のドミナントだと言われていてな、当然、岩をも砕く鋼の力は脅威に他ならねえ…が、鋼なくして人は生きていけねえのも事実…。お前達には、《墜ちた凶星》という魔動機をぶちのめして欲しい」

「奴は《闇喰の水瓶》という場所にいる。…あの闇の障壁の方向にはないから、方向には気を付けろよ？」

それを聞き、君達は新たな強敵の気配を、その言葉から察するだろう。

…それとは別に、システィナが彼に訊く。

システィナ

「エリックさん、そんなものでいいんですか？」

エリック

「構わねえよ。俺の先代…《宙準星の巫女》に喰い殺された、フーゴとかいう執心野郎よりは、まともでいてえと考えてるからな」

そう言って、《墜ちた凶星》を探し始める君達を、彼女らは見送った。

(※GMメモ：ここに「共通部分 (Lap2-14d)：贅の王-場面 1」を挿入)

墜ちた凶星、ターミナスシステム

君達は、《闇喰の水瓶》へと辿り着いた。

ここまでの道中で、君達は魔物に絡まれていただろう。

PC 全員に「2d+25」点の確定ダメージ。

(※GMメモ：RP 待機)

辿り着いた《闇喰の水瓶》には、石でできた球体の物体があった。

それが妖しく、青く光り、浮遊する。それが君達を検知すると、一瞬レーザーを地面に放ち、臨戦態勢に入る。

(※GMメモ：RP 待機)

NOTORIOUS MARKS RANK: A

敵：ターミナスシステム

君達は、ターミナスシステムを倒した。

砕け散ったターミナスシステムの破片は…なにかしら、使えそうではあった。

探索判定 目標値：18/21

成功時：「1d+6」個だけ、シナリオ中アイテム「魔動機文明の機構片」を入手する。

大成功時（目標値 21 以上）：「1d」個だけ、「楔石の欠片」を入手する。

（※GMメモ：RP待機）

君達が拾ったものを観察していると、空間を切り裂くような音がする。

危険感知判定 目標値：20

君達はその音に気付くと、空中に漆黒の魔動機が浮遊していた。

財団

『やれやれ。ここまで出向いたのはいいのですが、反応が鈍いと嫌気が差しますねぇ』

（※GMメモ：RP待機）

空中の、漆黒の魔動機は…物騒な武器をいくつも担ぎ、いかにも世界を滅ぼしますといわんばかりの態勢で、君達を見下ろしていた。

そして、その魔動機は自らのことを『財団』と名乗った。

財団

『少しぐらい警戒を解いてくれやしませんかねえ？僕は、君達の限界を調べに来た。

が…君達のその調子を見ると、少しがっかりしたよ。未だに動けそうじゃないか』

（※GMメモ：RP待機）

空間が歪むと同時に、そこへ見覚えのある銀髪赤眼の女性が現れる。

まどか

「抗い続けるのも、ここまでだ。お前達の、その肥え太った自我と力…その双方を、破壊する。奇跡的に、今この場に、エクセリアは存在しないようだからな…叩き潰してやる」

(※GMメモ：RP待機)

財団

『僕達は君達に挑戦する。そして示す。

世界を破滅させるのは、世界を示した人間自身だと』

(※GMメモ：ここに「共通部分 (Lap2-14d)：費の王-場面2」を挿入)

救援

財団の、漆黒の魔動機…その砲門が光り輝く。

また、まどかも臨戦態勢に入る。君達の終焉は、確実なものへと変わった——かに思われた。

エリック

「させるかよ、ボケが！」

まどかに、岩の剛拳が突き刺さる。吹っ飛ばされた彼女は、フルバーストの態勢に入った漆黒の魔動機の射角を僅かにずらす。

結果、君達には当たらず、降りかかるミサイルは切り落とされ、実質的な被害はゼロだった。

エリック

「大丈夫か？あの魔動機が、閻魔の水瓶に向かったのが見えたからな…。システィナの嬢ちゃんと一緒に駆けつけたってわけだ」

システィナ

「これ以上戦うなら…容赦はしないよ、神城」

まどか

「…巫覡が、まだいたとはね…。アイザック、撤退しよう。これ以上は分が悪い」

(※GMメモ：RP待機)

まどかの魔法により転移し、彼らはその場から消える。
その空間に、緊迫感と入れ違う形で、沈黙が訪れた。
それと同時に、轟音が響き渡る。
複数本の塔が倒れ、消失し…闇の障壁が消えるような音が響いた。

エリック

「あっちの方向っていうと…マンダラム村か！」

システィナ

「いいえ…幻想の塔です！」

(※GMメモ：ここに「共通部分 (Lap2-14d) : 贅の王-場面 3」を挿入)

合流

君達がマンダラム村の先にある、幻想の塔へと向かっている最中に、エクセリアと合流した。

エリック

「何があった、エクセリアのお嬢」

エクセリア

「傍迷惑なマザコンにウザ絡みされた」

(※GMメモ：RP待機)

システィナ

「…エクセリア・アウェア・《《エレーミアス》》？エクセリアさんの名前は、確か…」

エクセリア

「エクセリア・《《シャルロツテ》》・《《クレア》》・《《ゼーゲブレヒト》》・アウェアだ。決して、エレーミアスの名を冠してはいない」

エクセリアは困ったように、ゴッドフリーの誤解に対して指摘をする。

エリック

「…小難しい話は後でしてくれ。お前達は、墜ちた凶星から何か手に入れたか？」

(※GMメモ：RP待機)

君達は、ターミナスシステムから回収した破片を渡す。

エリック

「最高級クラスの魔動機械の欠片じゃねえか…！

よくやった。これを元手に、ヴァルマーレから種籾を買い付けるぜ。明日には届くつもりでいてくれ」

エクセリア

「分かった。…それじゃあ、帰ろうか」

そう言って、エクセリアは君達を帰路に誘う。

積もる話もあるだろう、その話を交えつつも、進んでいく。

その帰路で何か面倒事が起こることもなく…君達は、無事に隠れ家に帰り着くことができた。

(※GMメモ：分岐終了 (Lap2-14e) へ)

冶金ルート (Lap2-14b)

導入：冶金ルート

君達は、不服そうな態度を取るアンドレイに声をかけた。

アンドレイ

「はぁ…。エクセリアが出立する前に渡してきた、この設計図を用いて、機構を完成させなきゃならんってのに…」

そう言って、机に図面を開き、一体どの素材から手をつけようかと悩んでいて、君達の声が届いているかも怪しかった。

リーンが近づき、氷の魔力を纏わせた掌でアンドレイに触れる。

アンドレイ

「何をしてる！？…って、リーンか…。それに…」

(※GMメモ：RP待機)

アンドレイ

「お前達まで…。武器を鍛えてほしいのか？」

リーン

「違いますよ。…協力者です」

アンドレイ

「やれやれ…。気付かなかった俺も悪いが、お前にそれを使わせるのもよろしくないな」

アンドレイが頭をかきながら、主題を告げる。

アンドレイ

「昨日、エクセリアの双刀を診たんだが、かなり摩耗していてな。

今となっては、〈修理の光粉〉なんて作れねえ…。だから、〈永久氷晶のネックレス〉を作るときに使った高炉を発展させなきゃならん、ってことだ。そこで必要なのが、灼熱と化した合金を冷却する冷凍機、ってことだ。数個作るだけなら、リーンの手を借りれば十分だったが…、これからはそうも言うてはいられないんでな」

PC への選択肢

- ・強力な冷却効果を持つ魔物を捕獲してくればいいのか？
- ・冷却のための動力源はある？

アンドレイ

「金属の冷却に必要な冷媒は、エクセリアが“野暮用”を済ませつつ取ってくるということだったが…、彼女曰く、それを作るのであれば『強力な雷気を発生させる動力源』が必要なんだそう。リーンのツインドライブを拝借するわけにもいかねえし、かといってガイア達に、わざわざ位相欠陥を含んだ動力を作ってもらうのは厳しいんでな…」

(※GMメモ：RP待機)

そう話し込んでいると、ひとりの女性がやってくる。薄青色の袖が特徴的な、凜々しい見た目の女性だ。

????

「手伝ってほしいことは？」

(※GMメモ：RP待機)

アンドレイ

「お前が来るのは流石に聞いてなかったぞ」

リーン

「ジルさん、実はですね…」

そうして、事情を語ろうとしないアンドレイに代わり、リーンがジルに話し始める。

事情を聞き終えた後、ジルは沸点に達したかのようにブチ切れた。もはや描写不能なほどの怒りっぷりだったため、敢えてその描写は省略させて頂く。

ひとしきり怒り狂った後、すぐに態度を改め、ジルはこう告げた。

———こういうときこそ、ヴァルマーレに頼るのだと。

エメリーヌ

「なるほど、大方の事情は把握したわ。ヴァルマーレまでの旅路、楽しんで」

それを影で聞いていたエメリーヌの発言により、君達の退路は消失した。

幻の発電設備

君達は、ヴァルマーレへと向かう船の上で、ヴァルマーレの港へと到着するのを待っていた。最新の推進機関である『ミスリル機関』を搭載した船ではあるが、荒波もあってなかなかヴァルマーレの港が見えない。

ジル

「今日は波が高いわね…。嵐でも来るのかしら」

(※GMメモ：RP待機)

高い波は、災禍の兆し…。いつだか、誰かがそう言った。故に、ヴァルマーレにはこのような言い伝えがあるという。

——「海の慟哭と大地の怒りは不吉の象徴、空に三本線は凶事なり」と。

海の慟哭——高潮を、この場合は満たしている。だが、今回の場合は、『それだけ』ではない。

客室にあった新聞の類を、君達は調べることができる。

文献判定 目標値：18

成功時、興味深い内容の新聞記事を見つけることができる。

(※GMメモ：成功時、「メモ群-東ヴァルマーレ大震災」を挿入)

その後、なんだかんだあって、ヴァルマーレの玄関口、栃倉市へと辿り着いた。

栃倉市には、天まで届いて伸びる、魔動機文明の技術の粋たる軌道エレベーターが建っていた。

軌道エレベーターのある施設の周辺には…仮設住宅だろうか、プレハブ構造の施設がいくつも並んでいた。そう…ヴァルマーレという国家にとって、5年前の『第七霊災』は、未だ現在でありつづけていたのだ。

災害とは、ときに政権に致命的な一撃を加え、政権交代を起こす。

幸い、災害時の迅速な救助部隊の手配や、軍自ら救援活動を行ったことが評価され、政権が揺らぐことはなかった。

君達を出迎えた蘆田が、この惨事にげっそりとしていた様子から、それを勘ぐることは可能だった。

蘆田

「用件は、要するに『雷属性エーテルを吸収し、別の属性のエーテルを生み出す変換器』と、『雷属性エーテルを半永久的に放出する動力源』が欲しいって訳か」

頭をかきながら、蘆田は用件をきっちりと解釈する。

ジル

「できるのですか？」

蘆田

「ああ…。だがこんな状態だ、我々もそこまで暇ではない。

半永久的、とまではいかないが、その場しのぎはできるものなら渡せる」

(※GMメモ：RP待機)

蘆田

「エクセリアが求めているものは…我々も『幻の発電設備』として、その製法を読み解いていた最中だった。そこに、この災害だ」

リーン

「時期的には、第七霊災を齎した黒龍が顕現するくらいの時間に起きたんですね、『東ヴァルマーレ大震災』は…」

蘆田

「死者・行方不明者の合計が、57万人だ。地震に津波、火災旋風に土石流。あらゆる天災がヴァルマーレを襲ったが…そっちもただではなかった訳か…」

危険感知判定 目標値：20

成功時、大音量の足音を耳にする。

ヴァルマーレ海軍幕僚長

「蘆田陸軍大臣！緊急事態です！錨頭市の港で、潜水航空巡洋艦『アリコーン』が反乱を起こしました！」

(※GMメモ：RP待機)

———動力を得るために向かった先で、突拍子もない事象が、始まろうとしていた。

(※GMメモ：ここに「共通部分 (Lap2-14d)：費の王-場面 1」を挿入)

潜水航空巡洋艦『アリコーン』

ヴァルマーレ海軍幕僚長の報告を聞いた蘆田は、険しい表情がより険しくなった。

そして、しばらく考えた後に、蘆田は君達に向き直る。

蘆田

「…外野の人間であるとはいえ、君達の手を煩わせることになる。すまないが、アリコーン撃沈に協力してはもらえないか？」

PC への選択肢

・エクセリアさんが諸用でない

・潜水艦を沈めるほどの魔法は持っていない

(※GMメモ：RP待機)

蘆田

「…なんだと…？」

リーン

「確か、エクセリアさんは誰かに呼び出しを食らっていたような…」

その事実を聞いた蘆田の頭に浮かんでいた、反乱の鎮圧のための戦略が泡沫と化す。

蘆田

「…戦力は、今ここにいる君達だけというわけだ。

分かった。アリコーンの性能を説明しつつ、反乱の鎮圧のための方法を共有する」

そう言って、蘆田は海軍幕僚長に目配せをする。海軍幕僚長は、陸軍からの指示ということに対して若干の驚きを見せつつも、近くの軍事施設へ走っていく。それを、蘆田に急かされる形で追いかける。

そうして辿り着いた、栃倉市の海軍施設『刀衝基地』。客間に案内された君達は、1枚の設計図を見せられる。

文献判定 目標値：21

(※GMメモ：成功時、「メモ群-潜水航空巡洋艦『アリコーン』の性能諸元」を開示)

リーン

「早すぎるし性能が高すぎる…！こんなものを、どうやって止めると…！？」

ジル

「よくこんな船を作れたわね…。流石と言いたいところだけど、そうも言っていられないわね」

その性能を察した者達が声を荒げる。

蘆田

「だが、倒せないわけではない。アリコーンの弱点は、その強大なバッテリーだ。そこにマッチで火をつければたちまち燃え上がる。だが相手はあの艦長だ。『1 億人救済計画』とやらを、やりかねない」

(※GMメモ：RP 待機)

蘆田

「ジャスティン・ジェラード中佐だ。もっとも、奴の『救済』とは、ただの殺人なんだがな。…坂本幕僚長、例の艦はどうなっている？」

坂本幕僚長

「はっ。既に、軌道エレベーターにて完成し、遺すは主機の起動だけになります」

(※GMメモ：RP 待機)

君達が疑問を持ったことを察した蘆田は、不敵な笑みを浮かべて言った。

蘆田

「なあに。『アリコーン』に対抗する手段さ」

(※GMメモ：ここに「共通部分 (Lap2-14d)：費の王-場面 2」を挿入)

クラディオス級多目的強襲母艦一番艦『プトレマイオス』

連れられるがままに、君達は軌道エレベーターへと乗り込む。エレベーター内部で、蘆田は色々と君達に説明する。

蘆田

「元々、『アリコーン』に配属されるはずだった艦長、マティアス・トーレスは、それを部下に盗まれご立腹。それで、アリコーンに匹敵する性能を彼が要求。結果、艦載機こそ限られるが、一騎当千になり得る戦力を搭載した『多目的強襲母艦』として、うちの航空宇宙軍が仕上げたというわけだ」

(※GMメモ：RP 待機)

坂本幕僚長

「そして、そのパーツを提供したのは、エクセリアさん。

プトレマイオスは8年前から建造を始め、1年前に竣工。それに搭載する艦載機も、5年前から6機を作成。うち、4機に特殊な動力源を搭載しています」

軌道エレベーターと直結する宇宙ステーションに辿り着いた君達は、地に足がつかない感覚に戸惑うだろう。が、蘆田の指示で特に困ることはなかった。

そして、案内されるがままに、プトレマイオスへと乗り込む。

(※GMメモ：RP待機)

????

「ようこそ諸君。蘆田大臣から、話は聞いているだろう？」

PC への選択肢

- ・様子のおかしい人だ！
- ・詐欺師の声だ！

(※GMメモ：RP待機)

蘆田

「…遠慮がないな。彼こそが、ジャスティン・ジェラードの上司にして、彼が行おうとする計画の源流を想起しつつも、その計画を破棄した…20年前の戦争の英雄たる男、マティアス・トーレスだ」

トーレス

「護るべき民に被害が出ているのに、100万人を殺すなんてことをしたのなら、国の内外を問わずして紛糾は避けられまい。私は私の意志で、計画を破棄する選択をした…ただそれだけのことだ、蘆田大臣」

「私はプトレマイオスの艦長を務める。皆、まずは格納庫へ来てくれ」

「二個付き」の源流

トーレスに案内された、中央第三格納庫。

そこには、青白の機体が2機並んでいた。

トーレス

「エクセリアの発想には、毎度驚かされるよ。…だが、これですら、『かつて存在した文明にある機体を参考に組み上げた物体』なのだそうです…」

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「分からんか。…要するにロストテクノロジーの塊ということだ」

君達は、そのロストテクノロジーの塊を見上げる。

青白の機体のうち、武器を大量に積載しているほうは、リーンが疑似氷神シヴァを顕現させたときの姿に似ていた。

型式番号が、足場に取り付けられたディスプレイに表示されていた。

「GN-0000RpGNHW/7SG+GNR-010/XN 00 XN-RAISER SEVEN-SWORD/G」…と表示されていた。

その横の機体は、リーンも見覚えがない機体であるようだ。

ディスプレイには、「GN-XXX+GNR-000 SEFER RASIEL」と表示されている。

(※GMメモ：RP待機)

リーン

「あれが…『セイヴァー・アーマー』の原型…」

トーレス

「感心しているところ悪いが、ジェラード中佐が何をしでかすか分からん。プトレマイオスの始動を行う。ブリッジに来てくれ」

トレミー、発進

言われるがままに、ブリッジに入る。

これも魔動機なのだろうか…少なくとも、生きた機構がふんだんに組み込まれていることは容易に想像できた。

(※GMメモ：RP待機)

プトレマイオスクルー

「お疲れ様です、艦長！」

トーレス

「第一種戦闘配置。…アリコーンを撃沈しにいくぞ。ラジエル、ケルディム、アリオスの炉を起動しろ」

プトレマイオスクルー

「了解。太陽炉 2 号炉、3 号炉、4 号炉、リポーズ解除」

「エーテル流量安定。GN 粒子からのエーテル変換は順調です」

(※GM メモ：RP 待機)

トーレス

「敢えて言わせてもらうぞ。…ぶっつけ本番だ」

PC への選択肢

- ・ ちょっとおおおおおおお！？
- ・ 試運転もしてないんですかァ！？

すっっっごいニヤけ顔で、トーレスは言った。

トーレス

「ああ！」

(※GM メモ：RP 待機)

君達は、終わった…とでも思っただろう。蘆田は、そんな君達に対して言った。

蘆田

「動力の試運転はしているぞ？こいつそのものの試運転をしていないだけで」

プトレマイオスクルー

「主機臨界用出力問題なし。いつでも点火できます」

トーレス

「了解。カウント省略、メイン点火。トレミー、発進！」

軌道エレベーターの固定アームが外れ、プトレマイオスが後退していく。

スラスターを吹かして旋回すると、GN フィールドを展開して大気圏へ突入する。

蘆田

「アリコーンの現在位置は…恐らく諸島の多い『リヴァイアサンの顎』だろう。

軍事的には『PX80443』という名がついているが…、そういうことは、君達にとってはどうでもいいだろう？」

トーレス

「急速潜航と同時にトランザムを始動せよ。魚雷発射準備」

そう言って、トーレスは的確に指示を飛ばす。

流石は英雄と言うべきか…。

トーレス

「お膳立てはさせてもらう。だが倒すのは君達の役目だ。セファールラジエルで落としてもらう」

(※GMメモ：RP待機)

ブリッジのモニターに、魚雷の射線と敵艦の影が映る。

トーレスは、声を出そうものなら狂気を感じさせるような笑みを浮かべ、クルーに指示を飛ばす。

トーレス

「捉えたぞ。魚雷発射管、全門撃て！撃ち終わったら装填を急げ！

…さて、諸君。セファールラジエルの定員は2名だ。知力のあるもの、反射神経の鋭いものを選び出せ」

恍惚とした破壊

ここからの戦闘は、「プトレマイオス进行操作する3名」と「セファールラジエル进行操作する2名」に分けられます。

また、必ずメイナは「プトレマイオス进行操作する3名」に固定されます。

敵：アリコーン

アリコーン HP30%以下：降伏の欺瞞

ジェラード

『我が艦は降伏する！』

ジル

「なんですって！？」

トーレス

「詐欺師の声だな。私もやったことがあるから分かるぞ」

ジェラード

『こちら潜水航空巡洋艦『アリコーン』。降伏する、攻撃をやめてくれ！』

唐突に入った通信に、君達は驚くだろう。だが…、暫くして、アリコーンの中央から砲が現れたのを見た蘆田は、残酷な指示を飛ばした。

蘆田

「ウェポンズフリー。アリコーンを撃沈しろ」

アリコーン撃沈

君達の奮闘により、アリコーンのバッテリーに火が点いた。

ジェラード

『ヒャハハハ！500万だ、500万だぞ！』

彼の叫びの後に、アリコーンが爆沈した。

トーレス

「…口は災いの元だと、身を以て思い知ったな。もし仮に、俺があそこにいたのなら、同じ立場だったのだろうか…。

諸君、傾聴せよ。作戦は無事に、終了だ」

(※GMメモ：ここに「共通部分(Lap2-14d)：贅の王-場面3」を挿入)

帰路で見たもの

君達を送るために、プトレマイオスが《暗魂の暁》へと向かっている中。

君達を迎えている客間に、トーレス艦長が入ってきた。

トーレス

「海軍から、正式な令状が出た。本艦は、《暗魂の暁》へと出向する」

(※GMメモ：各フリーズRP待機)

トーレス

「驚いたか？…ああ分かるとも。俺とて、こんな令状は経験上初めて見たものでな」

「君達を拠点まで送った後、刀衝基地へ反転。その場しのぎの発電機の象徴、太陽光発電を持ってそちらへ向かうつもりだ。念のため、セファールラジエルを置いていく。太陽光発電を設置するエンジニアも連れて行くので、少し時間がかかるからな。まずはそれから電力を取ってくれ」

そう言って、トーレスの視点が、モニターに映った漆黒の障壁に移る。それが崩れるのが見えたからだ。

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「君達の上司は…なんかはっちゃけているようだな」

<hr>

君達が《暗魂の暁》の本拠に着く頃には、デッキで黄昏れるエクセリアを見つけるだろう。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「あー…。とんでもねえ、マザコン拗らせ野郎と対面してね…」

エクセリアは困惑したように、『マザコン拗らせ野郎』の話をしはじめた。

リーン

「…エクセリア・アウェア・《《エレミアス》》？エクセリアさんの名前は、確か…」

エクセリア

「エクセリア・《《シャルロッテ》》・《《クレア》》・《《ゼーゲブレヒト》》・アウエアだ。決して、エレーミアスの名を冠してはいない」

エクセリアは困ったように、ゴッドフリーの誤解に対して指摘をする。

エクセリア

「しかし、人型魔導兵器に乗り込んで潜水航空巡洋艦を沈めようとは…。難儀なことをしたな、お前達も」

(※GMメモ：RP待機)

会話は盛り上がり…、危険思想を持っていることを彼女が把握していた、あのトーレス艦長が自重したことは、エクセリアでさえも驚いていた。

エクセリアからしても、『マティアス・トーレス』は『悪魔』に見えていたようだ。

そしてなにより、『かつての世界線』において、エクセリアは彼と敵対し…そして、倒したと明言した。君達が聞いた、「空に三本線は凶事なり」という単語は、興味をそそられているようだった。

(※GMメモ：分岐終了 (Lap2-14e) へ)

木人ルート (Lap2-14c)

導入：木人ルート

君達は、君達自身の戦力に不安を持ったベルリオーズに声をかけるだろう。

ベルリオーズ

「俺に声をかけたと言うことは…戦力に不安を持っているとみてもいいのか？」

PC への選択肢

- ・ソウイウワケジャナイデス
- ・なんだか困っていそうだから

ベルリオーズ

「…逃がさんからな？」

さて、お前達に手伝って欲しいことがあるとすれば…頑丈な木を入手して欲しい。
そうだな…隕石に耐えるほどであればいい」

(※GMメモ：RP待機)

クライヴ

「頑丈な木…？ベルリオーズ、もしやお前が求めているものは…」

ベルリオーズ

「スターズクラージュ材。この世において、加工が容易である癖に硬いとされる木材だ。
それを木刀にすれば、戦艦すらも切り裂くことのできる硬さを有する刀と化す。
それに…他に求めるものがある。翠銀の延べ棒がいくらかと、名匠の葉茶を30杯」

(※GMメモ：RP待機)

スターズクラージュや翠銀鉱の所在位置、名匠の葉茶の製法は、スチュアートに訊いた方がいだろう。

伝説の素材

君達は、よく分からない素材に対して疑問を持ち、スチュアートのいる「学士の私室」に入った。

そのとき、スチュアートは頭を抱えながら、1枚の紙を見ていた。

(※GMメモ：RP待機)

スチュアート

「ああ、君達か。丁度よかった、少し頼まれごとをしてくれないかい？」

そう言って、スチュアートはその紙を君達に見せた。

(※GMメモ：「メモ群-ベルリオーズの要求」を挿入)

スチュアート

「ベルリオーズは…特にタングステン鉱を、『伝説の素材』と称していたね。

エクセリアが持っている、あの双刀…あれを修理・再鍛造をする素材に、大量のタングステン鉱を要求するみたいだね」

(※GMメモ：RP待機)

スチュアート

「…スターズクラージュ材を？なるほど、君達にもその依頼を出したというわけだ。

君達は、ラカロテア樹林の『禍つ炎の牛』を知っているかい？ベルリオーズが求める『カギユウの大角』は、それを倒すことで手に入れることができるんだ」

そう言って、スチュアートが『禍つ炎の牛』の特徴について説明を始める。

見識判定 目標値：20

成功時、スチュアートが語った『禍つ炎の牛』の情報を得ることができ、この後の『禍つ炎の牛』の魔物知識判定に+4のボーナスを受けることができる。

(※GMメモ：「メモ群-ノートリアスモンスター『禍つ炎の牛』」を挿入)

スチュアート

「…ベルリオーズは、『禍つ炎の牛』の角を、錬金茶として欲しているようでね。

エクセリアの愛刀が折れかけているのに、彼女はその状態を鑑みずに武器を使っていたようで、彼…鬼神の如き怒りっぷりを見せていてね。君達にキツくあたったのも、そういうことなんだろう…」

(※GMメモ：RP待機)

君達は、『禍つ炎の牛』を探す冒険に出ることになる。

(※GMメモ：ここに「共通部分 (Lap2-14d)：贅の王-場面1」を挿入)

火口の審判者

君達は、火口の審判者を探しに、ペルセフォネ湖の岸に位置する「赫耀の涙」という場所に行くだろう。そこには、炎を纏った牛がいた。

しかしなぜだろう、その牛は…とっくに倒されていた。

君達はその遺骸に、音を立てずに接近することを試みることができる。

隠密判定 目標値：21

成功時、そこにイリヤスフィールがいることが分かる。

イリヤ

「なにしてるの？」

(※GMメモ：RP待機)

イリヤ

「ああ…君達も、火口の審判者を倒しに？ははは、ちょっと遅かったかな」

乾いた笑いで君達を見るイリヤ。

イリヤが数歩動くと、そこには火を纏った牛の死骸が10体もあった。

イリヤ

「ベルリオーズの要求はしんどいからねえ。君達も、他人に投げるって言う思考を少し入れたほうがいいと思うよ？」

(※GMメモ：RP待機)

イリヤ

「スターズクラージュ材か…。この辺に生えてるよ。ただ…『金剛木』の名の通り、採集に高い難度があるってことかなあ」

「でも、私に任せて。この両手剣で必要な数を集めよう」

(※GMメモ：ここに「共通部分 (Lap2-14d)：贅の王-場面2」を挿入)

採集結果

君達は、イリヤが無理矢理伐採した木材を運び…、素材の集計を行った。

イリヤ

「なかなか、要求量が多くて骨が折れそうだったよ」

スチュアート

「木を伐採するのに両手剣を使うという発想がマズいね」

クライヴ

「流石に、タングステン鉱を掘ってこいっていう依頼は…疲れたよ」

ジェシカ

「イフリースの力を使うのは、以ての外だからな。単純な採掘は、《シド》といえど初めてということか」

(※GMメモ：RP待機)

君達がそう話していると、ベルリオーズが戻ってくる。

ベルリオーズ

「素材は…集め終わったようだな。そういえば、デッキでエクセリアが黄昏れていた。何があったのか、確認して欲しいのだが」

<hr>

ベルリオーズに言われるがままに、エクセリアの元へ行くと、その彼女が凄く困ったような表情を浮かべていた。

エクセリア

「はぁ…」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「ああ、いたのか。…とんでもねえ、マザコン拗らせ野郎と会ってね…」

そう言って、エクセリアは『とんでもないマザコン拗らせ野郎』の話をする。

PC への選択肢

- ・「エレーミアス」…？
- ・エクセリアさんの名前は、確か…

エクセリア

「ああ。私の名前は『エクセリア・アウェア・《《エレーミアス》》』ではない。

『エクセリア・《《シャルロツテ》》・《《クレア》》・《《ゼーゲブレヒト》》・アウェア』なんだ。ゴッドフリーめ、なんて勘違いを…」

(※GMメモ：分岐終了 (TRExLap2-14e) へ)

分岐終了 (Lap2-14e)

エクセリア

「さて…色々と纏めよう。全員を集めてくる」

数刻後。

君達は、大広間に集められた。

エクセリア

「さて…諸問題の答え合わせと行こうじゃないか。雪月花のマルグリットの要求…コメの獲得。これは、エリックの協力もあって成功」

その言葉を聞き、マルグリットが笑みを浮かべる。

エクセリア

「真空冷凍機を動かすための動力の確保。…これは、永久光発電機を確保するまでの間、プトレマイオスの艦載機から動力を得ることで解決。それと同時に、マティアス・トーレス大佐を、出向扱いで勧誘」

その言葉を聞きつつ、トーレスはタバコを吸う。

エクセリア

「結月と月光を修理するためのタングステン鉱の採集、及び訓練用の木人の確保と、それに伴って必要となる錬金業の素材の確保。これは、クライヴとイリヤがやってくれたようだね」

イリヤは自慢げに笑顔を浮かべるが、クライヴはそれを見て困惑したような表情を浮かべる。

エクセリア

「各自が、それぞれの願望を果たすことができた。

…目的は果たされたと言えるだろう。だが…」

エクセリアはそう言って、エクセリア自身の手を目を向ける。

そこには何もないように、君達には見えた。

エクセリア

「…いや、気にしても仕方ないか」

3 日後 ～巫女の娘～

とんだ騒ぎから、3 日後。

今までのことが、予定調和なんじゃないかと思えるほどの、とんだ騒ぎに発展する。

????

「おかあさん、どこー？」

(※GMメモ：RP 待機)

3 歳の女兒が大広間にいた。真っ先に君達は思ったはずだ。「誰の子だ」…と。

よく見ると、光の翼が 3 対 6 枚生えており、その特徴を持つ者を、ひとり知っている。

少女は『おかあさん』の存在がいないことを知るや否や、悪い笑みを浮かべる。

(※GMメモ：RP 待機)

????

「おねーさんたち、おかあさんがどこにいるか知ってる？」

(※GMメモ：RP 待機)

????

「セリーヌ！…ったく、こんなところに来てたのか…」

そこへ、ミアキスの偉丈夫が入ってくる。少女に対して「危ないから」など、かなりキツク言っているようだが、恐怖で泣くどころか、不敵な笑みを浮かべて君達を見ていた。まるで、獲物を見つけてニヤついているかのように。

セリーヌ

「ケースは頑固だなあ。おかあさんにいたずらしないと気が済まないの。おかあさん、最近帰ってきていないか…らあっ!？」

エクセリア

「なんで来たんだ、全く…」

セリーヌ

「おかあさん!？なんでここに…!」

エクセリア

「システィナに根回ししてるんだよ、『お前が来たら即座に止めに行ける』ように」

(※GMメモ：RP待機)

どうやら、エクセリアの娘であるらしい。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「そういえば、言ってなかったな。

このわんぱく娘はセリーヌ。…3年前に私が産んだ…、正真正銘、私の娘だ」

…君達は、エクセリアが二人に増えるような錯覚により、胃を痛めることになった…。

報酬

経験点

- ・基本：2000点
- ・依頼クリア：3000点

資金

- ・基本：6000G
- ・依頼クリア：3000G

- ・エクセリアによる補償：8000G

名誉点

このシナリオに名誉点報酬はありません。

成長回数

- ・基本：7回